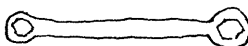
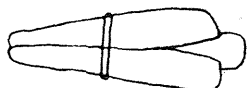


材料の固定②

名古屋大学 森 下 一 期

7月号で??として書いたものは、“補助具と足”とも呼べばよいでしょうか。これを見たのは、ノミや小刀づくりの鍛冶屋、左市弘さんのところ。ヤスリやせんを使うために両手を自由にしなければなりません。そこで、材料を足で押さえるわけです。

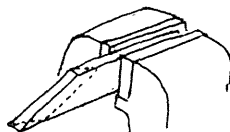
その時図①のような補助具を使って、写真のように小刀などを台に押しつけて固定します。足



図①

が自由に動かないとできないことですが、万力を使うより、利点があります。万力では、小刀ならば柄の平らな部分をはさむことになります(図②)。

そうすると、刃をつけるために斜めに削るところは、水平に削ることが



図②

できず、前回述べたように人間の方が体をかたむけて削らなければなりません。しかし、足と補助具を使うと削りたい面をヤスリを使いたいところに自由に出すことができます。

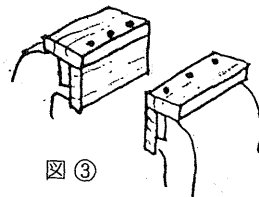
しかし、足を自由に使うには、相当に訓練しなければなりませんから、私たちとは縁遠いものと言えます。日本の職人さんが伝統的に確立してきた技として見ておきたいと思います。

ただ、先ほど普通の万力では削る面をおもいうように出せないと言いましたが、その不便さを解消するために、材料をはさんで部分が自由に方向を変えることができる万力もあります。

万力を使うとき

もう少し実用的なことを書きましょう。木工で使う木工万力は、口金に木をはりつけてあります。金工用の万力は口金は鉄ですからそのまま使うと、材料の木にキズをつけることがあります。木片をあてがうとよいのですが、ちょっと面倒です。図③のように、口金にかけられるものを用意しておくとう便利です。

金属加工のときにも、口金は鋼でたいへん硬いので、材料をキズつ



図③

けることがあります。また、ヤスリなどを使っているとき、口金をキズつけることがあるので、銅の板などでL字型の口金にかけるものをつくって使うと便利です。



万力はさびやすいので、油布でときどきふきましょう。道具・機械はさびていると、何ともみっともないものです。常に油をかけて手入れをしておくと、油びかりがして、つかいやすく、きれいでもあります。

また、とくに木工万力はこわれやすいので、すぐ修理しましょう。使えないものがあったとしても、何にもなりませんから。